

MORI MORI PRESS

2014 6 vol.37

モリモリアレス

森田としかず(前埼玉県議会議員)

昭和49年9月熊谷市久保島生まれ
 広瀬保育園、熊谷市立玉井小・中学校、埼玉県立熊谷高校、
 早稲田大学政経学部、カナダ・マギール大学留学、
 早稲田大学大学院博士課程を経て…
 28歳・県議選初挑戦(23票差で次点)
 30歳・訪問介護事業開始 32歳・県議選初当選
 33歳・介護施設上川原んち開設 36歳・県議選2期目当選
 38歳・衆議院議員選挙初挑戦(55,663票で次点)

〒360-0831熊谷市久保島1003-2
 tel.048-530-6001 fax.048-530-6002

mori_morita 森田俊和

モリモリプレスとは!?

森田としかずのビジョンや政治に対する思い、地域活動の記録などを皆様にお伝える広報紙です。

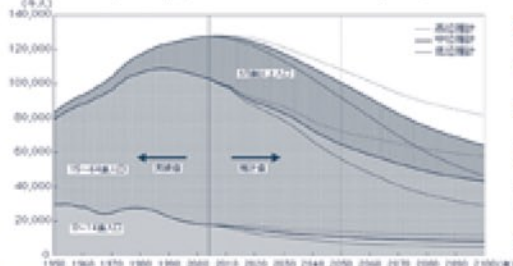
※バックナンバーはホームページからダウンロードしていただけます。



～高齢化時代と付き合うために～ 長寿社会の生き方にあった制度を!

■高齢化は悪なのか?

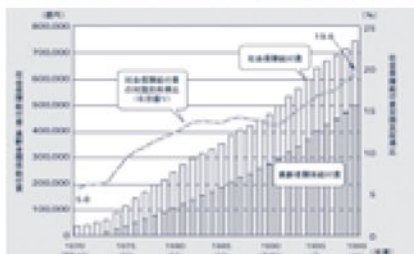
高齢化に加え、人口減少の時代。何となく私たちはそれが悪いように思っています。しかし、なぜ高齢化が悪いことのように扱われるのでしょうか。かつて日本でも医療が行き届かない時代、多くの乳幼児が死亡し、病気にかかれば大人でも満足に治療を受け



「人口推計年報」より

ることなく、薬を手に入れることができずに死に至ることがありました。今は、世界最高水準の医療技術と、それを支える制度があり、世界一の長寿国となりました。あるべき理想に近づいてきたはずが、近づいてみると何かが違っている、と満たされない思いを抱くようになり、皮肉な状況になっています。人間の欲にはきりがありません。私たちの医療に対する不満というのは、世界的基準からしてみれば最先端医療に対する不満であり、日常的な医療サービスの提供という意味では、これ以上の制度を持つ国は希です。

人口減少については、確かに人数が減れば、日頃の食料品から家電、車などの売り上げは減少するでしょうから、それなりの影響はあると思います。しかし、人口が減ること自体が問題かと言えば、そうとも言えません。50年後には、日本の人口は約8000万人になるという予想があります。今と比較すると



国立社会保障・人口問題研究所資料より

4000万人減るといことですから、随分減るな、という印象です。しかし、8000万人という数字は、時代をさかのぼってみると昭和25年頃の人口と同じです。それ以前は当然さらに人口が少なかったということであり、「減る!減る!」と大騒ぎすることでもないかもしれません。

では、何が問題なのかと言えば、社会保障の問題です。いわゆる高齢者が多くなって、年金、医療、介護といった分野にかかる費用が急増しています。年間1兆円増えているということは、埼玉県の一般会計が2兆円弱ですから、2年で埼玉県が養えてしまうくらいの出費が増えていることになります。いくら国家公務員の数を減らしても、議員の歳費を削っても、到底まかなえるものではありません。根本的な発想を変えないと、財政はパンクします。

■日本だから、できること!

さて、なぜこのような状況になってしまったのでしょうか。高齢者が多くなると出費が多いということが前提として扱われていますが、この前提を見直す必要があります。

社会保障制度が始まった昭和30年代の状況とは、現在の「高齢者」の状況は全く違います。例えば、サザエさんのお父さん、波平さんは50歳代でした。あの外見で50代とは驚きですが、昭和30年代の50代の方は、あのような感じだったのか



「助け合い」が日本社会の基礎です。もしも。当時は55歳定年、60歳定年ということが、実態と合っていたのかと思われます。しかし、今では、60代、70代の現役の方はたくさんいらっしゃいます。いつまでも元気で、人の役に立つということによって、私たちは最後まで生き生きと人生を送ることができるのではないのでしょうか。(次号へ続く…)